(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2008-137724
(P2008-137724A)
(43)公開日　平成20年6月19日(2008.6.19)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 85/50	(2006.01)	B65D	85/50	G	3E035
B65D 65/04	(2006.01)	B65D	65/04	A	3E086

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 19 頁）

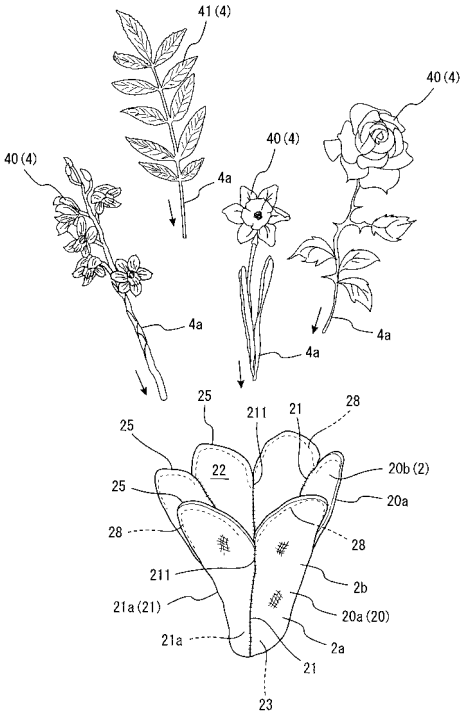
(21)出願番号　特願2007-86075(P2007-86075)
(22)出願日　平成19年3月28日(2007.3.28)
(31)優先権主張番号　特願2006-306056(P2006-306056)
(32)優先日　平成18年11月10日(2006.11.10)
(33)優先権主張国　日本国(JP)

(71)出願人　599125777
小林　祐子
京都府京都市左京区聖護院山王町１６　サンプラザ６０８
(74)代理人　100101627
弁理士　小林　宜延
(72)発明者　小林　祐子
京都府京都市左京区聖護院山王町１６　サンプラザ６０８

Ｆターム(参考)　3E035 AA20 BA08 BB10 BC10 BD10
3E086 AA12 AC02 AC40 AD30 BA02
BA18 BB90 CA40

(54)【発明の名称】フラワー用外装具

(57)【要約】
【課題】　花束を包んで和装に合う存在感あるものとし、さらには贈答品,インテリア等にもなり、高級感,気品,自由性,オリジナリティ豊かなフラワー用外装具を提供する。
【解決手段】　布地からなる一又は複数の表皮片２０が縫糸に２１ａより縫合されて上面開口２２の筒状体２に形成され、複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部、又は保持具に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、前記上面開口２２から挿入し前記筒状体２内に収納できるようにした。
【選択図】　図４



【特許請求の範囲】
【請求項１】
布地からなる一又は複数の表皮片(20)が縫糸(21a)により縫合されて上面開口(22)の筒状体(2)に形成され、複数本の花材(4)が直接寄せ集められてなる花束の下部を、又は保持具(5)に複数本の花材(4)を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、前記筒状体(2)内に収納する一方、花材(4)の上部を筒状体(2)外へ出すようにすることを特徴とするフラワー用外装具。
【請求項２】
前記筒状体(2)の上面開口周縁に帯状又は花弁状に複数の舌片部(25)が延設される請求項１記載のフラワー用外装具。
【請求項３】
前記筒状体(2)と別体にして、該筒状体を結束する紐状体(3)をさらに具備する請求項１又は２記載のフラワー用外装具。
【請求項４】
前記筒状体(2)と別体にして、布地からなる帯状の加飾片(6)をさらに具備し、該加飾片(6)の基端部が筒状体(2)内に挿入、配設されるか、筒状体(2)の外周面に配されて、該加飾片が前記紐状体(3)で該筒状体(2)と共に結束されるようにした請求項３記載のフラワー用外装具。
【請求項５】
前記筒状体(2)と別体にして、該筒状体よりも小さな筒体(7a)又は有底筒体(7b)からなる剛性の形状安定部材(7)が該筒状体内に挿置され、前記保持具(5)を該形状安定部材に挿着できるようにした請求項３又は４記載のフラワー用外装具。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は花束や花を生けたブーケ等の下部を挿入、収納して気品,豪華さを演出するフラワー用外装具に関する。
【背景技術】
【０００２】
結婚式などで花束が用いられるが、これ迄の花束は通常、樹脂フィルムでラッピングし、リボンなどで飾っていた。花束の花が主役で樹脂フィルムのラッピングは花束の形を崩さぬよう形を整える補助的役割を果たすにすぎなかった。こうしたなか、花束の見栄え向上を果たす花弁用包装材の発明技術が提案されている（特許文献１)。
【０００３】
【特許文献１】特開２００５－１４９８７公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、特許文献１の基端部から開口端部に向けてテーパ状に広がる花弁用包装材は、花弁用包装材にボリューム感を与え花弁の見栄えを良くする内容にとどまっていた。また、外側包装体にメッシュを用い、内側包装体に不織布を用いるが、いずれも化学繊維製品にして熱融着で両者を接着する技術であり、花束の包装作業の迅速化に重きをなしていた。特許文献１の花弁用包装材から得られる装飾性には限界があった。
【０００５】
一方、ウエディングドレスを着るときは図２６に示すようなブーケをもつのが一般的であるが、花の部分で楽しむのが殆どであった。ブーケを手で持つブーケホルダー(図２５,図２６)の柄部５ａにリボンを巻いて処理するのがやっとであった。柄部５ａのプラスチック製部分はむき出しになっており、花の部分とは対照的に見劣りしていた。
また、結婚式で、白無垢や打ち掛けなどを着る時、手に扇子を持つのがしきたりであるが、希望で花を持ちたいと願っても従来のブーケでは似合わなかった。ブーケでは、和服

の豪華さに負けてしまい、ブーケの精彩がなくなった。そもそも和装イメージにそぐわなかった。花の部分の変化,対応だけでは解決し得なかった。

【０００６】

本発明は上記問題点を解決するもので、花束やブーケを包んで、和装に合う存在感あるものとし、さらには贈答品、セレモニー等での贈呈品や室内等を飾るインテリアにもなり、これまでの花束の包装材,包装具と違った高級感、気品、自由性、オリジナリティ豊かなフラワー用外装具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

前記目的を達成すべく、請求項１に記載の発明の要旨は、布地からなる一又は複数の表皮片(20)が縫糸(21a)により縫合されて上面開口(22)の筒状体(2)に形成され、複数本の花材(4)が直接寄せ集められてなる花束の下部を、又は保持具(5)に複数本の花材(4)を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、前記筒状体(2)内に収納する一方、花材(4)の上部を筒状体(2)外へ出すようにすることを特徴とするフラワー用外装具にある。

請求項２の発明たるフラワー用外装具は、請求項１で、筒状体(2)の上面開口周縁に帯状又は花弁状に複数の舌片部(25)が延設されることを特徴とする。請求項３の発明たるフラワー用外装具は、請求項１又は２で、筒状体(2)と別体にして、該筒状体を結束する紐状体(3)をさらに具備することを特徴とする。請求項４の発明たるフラワー用外装具は、請求項３で、筒状体(2)と別体にして、布地からなる帯状の加飾片(6)をさらに具備し、該加飾片(6)の基端部が筒状体(2)内に挿入、配設されるか、筒状体(2)の外周面に配されて、該加飾片が前記紐状体(3)で該筒状体(2)と共に結束されるようにしたことを特徴とする。請求項５の発明たるフラワー用外装具は、請求項３又は４で、筒状体(2)と別体にして、該筒状体よりも小さな筒体(7a)又は有底筒体(7b)からなる剛性の形状安定部材(7)が該筒状体内に挿置され、前記保持具(5)を該形状安定部材に挿着できるようにしたことを特徴とする。ここで、「剛性の形状安定部材」は布地からなり撓みやすい表皮片に対し、通常用いる状態で撓むことがなく、有る程度の曲げやねじれに対して筒体(7a)又は有底筒体(7b)の形状を維持し、ある程度耐える能力のある部材をいう。該形状安定部材の剛性はプラスチック製, 紙製,木製,金属製などで満たされる。

【０００８】

請求項１の発明のごとく、布地からなる一又は複数の表皮片が縫糸により縫合されて上面開口の筒状体に形成されると、布地のフラワー用外装具ができるので、和装に合う存在感ある外装具を作ることができ、これまでの花束の包装品と違った高級感、気品、自由性、オリジナリティ豊かな製品となる。結婚式,披露宴で使用可能になるばかりか贈答品、セレモニー等での贈呈品や室内等を飾るインテリアにもなり得るフラワー用外装具が出来る。

請求項２の発明のごとく、筒状体の上面開口周縁に帯状又は花弁状に複数の舌片部が延設されると、舌片部が花束の花に付加される花弁に似ることから、より高級感あるフラワー用外装具になる。請求項３の発明のごとく、筒状体と別体にして、該筒状体を結束する紐状体をさらに具備すると、紐状体が筒状体を結束することで該紐状体がアクセントとしてより一層の美しさ,豪華さを表現する。また、紐状体が手にもつ把手部分を形づくって安定固定できるので、インテリア等の置物とした場合に効を奏する。

請求項４の発明のごとく、筒状体と別体にして、布地からなる帯状の加飾片をさらに具備し、該加飾片の基端部が筒状体内に挿入、配設されるか、又は筒状体の外周面に配されて前記紐状体で結束されるようにすると、同じフラワー外装具であっても、加飾片の配設位置によってその外装具の外観形状をいろいろと変化させることができるので、花入りフラワー用外装具を作る側に、より一層の自由性,オリジナリティ豊かな遊び心を楽しめる。請求項５の発明のごとく、筒状体(2)と別体にして、該筒状体よりも小さな筒体(7a)又は有底筒体(7b)からなる形状安定部材(7)が該筒状体内に挿置され、前記保持具(5)を該形状安定部材に挿着できるようにすると、形状安定部材(7)が該筒状体内に挿置されること

によって、ブーケホルダーの保持具の柄部が細くて短くても形状安定部材の大きさ、形状を変えることによって、フラワー用外装具の外観を整えることができる。保持具の柄部が短い場合も、形状安定部材を長くすることで持ち易くなる。

また、表皮片が西陣織(登録商標)の布地で形成され、且つ前記紐状体が帯紐で形成されると、筒状体に日本の伝統的な息吹が吹き込まれ、格調高いフラワー用外装具となって和装の花嫁衣装に一段と似合うものとなる。さらに、一の前記筒状体の筒内に別体の筒状体を挿通させ重ね着をさせると、重厚感,ボリューム感溢れるフラワー用外装具ができる。

【発明の効果】

【０００９】

本発明のフラワー用外装具は、花束やブーケを挿着して、和装に合う品格,豪華さを備えるものとなり、さらに贈答品,贈呈品やインテリア等にも利用可能で、これまでの花束の包装材,包装具では得られなかった高級感,気品,自由性,オリジナリティ豊かな表現が生まれるなど優れた効果を発揮する。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、本発明に係るフラワー用外装具(以下、単に「外装具」という。)について詳述する。

【００１１】

(1)実施形態１

図１～図３は本発明の外装具の一形態で、図１は複数の花材を束ねた花束を上面開口から筒状体内に挿入し、花束の下部を収納セットした外装具の斜視図、図２は筒状体の表側斜視図、図３は筒状体の裏側斜視図である。

【００１２】

外装具１は筒状体２と紐状体３とを具備する。筒状体２は布地からなる一又は複数の表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて上面開口２２の筒状に形成される外装具１の主要部である。複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部(主として各花材４の軸４ａ)、又は保持具５に複数本の花木を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、上面開口２２から挿入し前記筒状体２内に収納できるようになっている。複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部を、又は保持具５に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、前記筒状体２内に収納する一方、花材４の上部を筒状体２外へ出すことができるようになっている。ここで、「複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束」には、図４のごとく１本ずつの花材４を個別に筒状体２の上面開口２２から挿入し、結果的に複数本の花材４が寄せ集められる花束も含む。花材４は花束やブーケを形成する個々の花木で、軸４ａ(茎又は枝)に花,花弁４０がついたもの、草花の軸４ａに葉だけがついた枝葉４１のもの、樹木の葉がついた枝を含む。

本実施形態は、きものに使用する帯を長手方向の所定長さに切断して一の表皮片２０を切り離す。そして、この一の表皮片２０を図２,図３のごとく帯幅方向の一端縁と切断した帯幅方向の他端縁と突き合わせ筒状に丸め、さらに裏面側で一端縁と他端縁近くに設けられた縫い代部分２０１を重ね合わせた後、該部分に縫糸２１ａによる縫目ライン２１を形成する。一の表皮片２０を円筒状に丸めた後、縫い代部分２０１の重ね合わせ部分を縫糸２１ａで帯幅方向に沿って縫合し、帯幅の長さ全てが縫合され、上側と下側が開口する筒状体２が形成される。帯幅が筒状体２の高さＨになり(図２)、筒状体２は筒内径が上下方向に亘って略同径の円筒形になっている。符号２０ａは筒状体２の表地、符号２０ａ$_1$は表地に設けられた柄を示す。尚、図４のように表地２０ａと裏地２０ｂとで図２の縫い代部分２０１を覆い隠すと、見栄えを一層向上させることができる。

【００１３】

前記表皮片２０を布地とするのは、布地で作られる筒状体２そのものが装飾品になり、花材４を束ねた花束の花やブーケの等の花に劣らない華やかさを演出できるからである。本発明でいう布地は織物又は編物をいう。織物は織機にかけ、縦糸と横糸が上下に入れ替わって交錯した平らな布地である。縦糸と横糸の交錯点の配置が織物組織と呼ばれる。編

物はループがからみ合って構成された布地で、伸縮性、柔軟性に富む。本発明で用いる表皮片２０の素材は布地でも織物が好ましく、特に柄模様の入った織物が好ましく、西陣織(登録商標)の織物で作られるのがより好ましい。西陣織は、「京都西陣を本拠地として製造,販売に従事する個人または団体が製織する織物で、機業の各工業組合規定の証紙,検印の押されたもの。帯,着尺,ネクタイ,洋服地,緞帳など多品種にわたるが、長い伝統に基づく技術や意匠の蓄積、新しい技術,意匠の開発によって、手工芸性を加味した高級紋織物として著名。」(広辞苑)であり、また「京都の西陣から産出する織物の総称。主として錦,繻子,金襴,緞子などの高級絹織物」(大辞泉)をいう。

【００１４】

筒状体２の外装具１が布地、織物で形成されることによって、これに花材４を収納した時、花材４のみならず花材下部を覆う外装具１が従来の合成樹脂フィルム等の包装具にない豪華さを演出する。特許文献１の花卉用包装材が、透明樹脂フィルムや樹脂製不織布などの花束の花材４を包み、花を引き立たせるだけの脇役であったのに対し、筒状体２が布地、織物からなる表皮片２０を縫糸２１ａにより縫合して形づくられることによって、外観,風合い,感触等で、落ち着いた趣き,重厚さ,高級感等を表現でき、花束の花材４と一緒に美を作り上げる主役になる。外装具１と花材４とが合体し、花で飾られた花束入り外装具は、外装具１がゴージャスな雰囲気を醸しだし、花材４と織物のもつ外装具１が融和し斬新な造形美が生まれる。さらに西陣織の表皮片２０によって外装具１が形成されると、気品が備わり且つ豪華絢爛となる。白無垢や打ち掛けなどを着る結婚式で、花束が挿着された花束の外装具１を手にしても、従来のブーケと打って変わって、和服の豪華さに負けることがない。花を飾った外装具１は品格溢れる美しさ、和の神髄が味わえ、和装結婚式を引き立てる立派な商品になる。

【００１５】

加えて、本実施形態の筒状体２は、中間位置よりもやや上方位置の裏地に、筒状体２の筒内径に沿ってゴム製紐２６が環状に配設され、該ゴム製紐２６がその部分の筒状体２の筒径を絞る。符号２７は被覆カバーで、環状に配されたそのゴム製紐２６に沿ってこれを覆いズレ防止する。符号２ｄはゴム製紐２６による筒状体の絞りシワを示す。ゴム製紐２６が在ることによって、筒状体２は常態下で図２,図３のごとくゴム製紐２６のある部分の内径が小さくなる。しかし、複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部を筒状体２内に挿入するときはゴム製紐２６を伸ばし筒口を拡げて挿着できるようになっている。ゴム製紐２６は花束下部を挿着した後、該花束をしっかりと保持すると共に該ゴム製紐２６の括れ部分よりも下が手で持つ所であることを示す目印的役割を果たす。

【００１６】

紐状体３は筒状体２と別体にして、該筒状体２を結束する長さを有する紐状のものである。前記ゴム製紐２６を伸ばし筒口を拡げて花束の下部を筒状体２内に挿入させた後、ゴム製紐２６が弾性復元で収縮して花束下部を保持するが、さらに筒状体２の下半部を図１のように結束するのに該紐状体３が用いられる。筒状体２単独でも外装具１となるが、花束や花を生けたブーケ等の下部を収納した筒状体２の外面下部を紐状体３で巻くことによって、より一層の気品,豪華な雰囲気が味わえる。また、花束等を収納した後、紐状体３で筒状体２の外面下部を縛ることによって、花束入り外装具が手で持ち易くなる。筒状体下半部に巻回結束された紐状体３の凹凸が手で持ったときの滑り止めになる。紐状体３は筒状体２を結束できる紐状のものであれば特に問わないが、高級感を出すためにきものの帯紐がより好ましい。加えて、筒状体２の本体主部２４が西陣織等の織物で形成されると、より一層の高級感を醸し出す相乗効果が発揮される。

【００１７】

次に、外装具１の一使用方法を説明する。まず、筒状体２のゴム製紐２６の部分の筒内径口を広げた後、複数の花材４を寄せ集めて手に持ち、その花束の下部、主として花材４の軸４ａの部分を上面開口２２から挿入し前記筒状体内、詳しくは筒状体２の下半部内に収納する。或いは、複数本の花材４を寄せ集め、これらをゴム輪,紐などで縛って花束にしたものを手に持ち、該花束の下部を上面開口２２から挿入し前記筒状体２内に収納する

。更に図示を省略するが、瓶,コップ,ペットボトルなどの上面開口２２の筒状保持具５の上面開口２２から挿入し、筒状体２内に前記花束の下部且つ該保持具を収納することもできる。収納した後、手で広げていたゴム製紐２６の部分を離し該ゴム製紐２６で花束下部を仮結束させる。続いて、ゴム製紐２６がある部分よりも下の筒状体２を手に持って、筒状体２に挿着した花材４をアレンジする。未だゴム製紐２６による仮結束状態にあるので、花材４を動かせる融通性があり、調整,アレンジして外から見える所の花材４を整える。

その後、花束の下部(主に花材４の軸４ａの部分)が収納された筒状体２の下半部を紐状体３で縛っていく。紐状体３で縛ることで、筒状体２に挿着された花束の各花材４の動きが止められ固定する。筒状体２の下半部が紐状体３で結束されることによって手で持ちやすい棒状の把手部分になり、またこの把手部分から筒状体２の上半部がラッパ状に立体的に広がる。花束の上半部が外から直接見えるようにして、筒状体２のラッパ状部分がその下の花束の部位に膨らみを与えて取り囲む。ゴム製紐２６が在る部分を目安にして、これより下の円筒部を紐状体３で結束し、図１のような花束入り外装具１が完成する。紐状体３で結束する円筒部の部分が長すぎる場合は、円筒部の下端部分を下面開口２３から筒内の中へ折り込み、筒状体２の全体バランスを整えることができる。花束の下半部が外装具１で覆われ、花束の自然美と外装具１の人工美の両者が調和した優美な姿が形づくられる。

【００１８】

このように構成した外装具１は、筒状体２が布地からなる表皮片２０を縫糸２１ａで縫合して上面開口２２の筒状に形成されるので、かって見たことのない美を表現できる。筒状体２が花束の花材４と共に美を作り上げる主役になる。これまでの花束の包装材,包装具にない高級感,気品溢れるフラワー用品になる。外装具１は見た目にも華やかで、且つこれまでの花束用ラッピング包装紙と違って、使い捨てでなく、花を入れ替え何度も繰り返し使用が可能である。外装具１に花束が挿着されると、花材４に布地表皮片２０の縫製品たる外装具１が落ち着きある和の雰囲気を与えつつ、新しい感性が吹き込まれた花束入り外装具１が誕生する。プレゼントの品として、また贈答品として用いることができ、さらにセレモニー等での贈呈品や室内等を飾るインテリアにもなり得る。例えば、縦にして使う以外に、図１の花束入りの外装具１を横置きして出窓に飾ることができる。或いは、花束入りの外装具１を上から吊したり、壁の高い所にかけたりして部屋の模様変えに役立ち、部屋の雰囲気を華やかにできる。室内の置物,飾り物に打ってつけとなる。

花束入りの外装具１はかっての商品に見られない自由性、オリジナリティ豊かな商品になっている。

【００１９】

また、該筒状体２を結束する紐状体３がさらに設けられる外装具１にすると、花束や花を生けたブーケ等の下部を収納した筒状体２の外面下部を紐状体３で結束することで、一層の気品,豪華さが生まれる。花束等を収納した後、紐状体３で筒状体２の外面下部を縛ることによって、手で持ち易くなる。筒状体２を縛る紐状体３によって外装具１の形状が安定し、インテリア等としてそのまま飾ることができる。紐状体３に係る組み紐の結び方も多種あるので、これらの方法を応用して使うと結納品のような格調高いものが出来上がり、また紐結びの勉強にもなる。

さらに、筒状体２の本体主部２４が織物、特に西陣織(登録商標)等の柄模様の入った織物で形成されると、より一層の高級感を醸し出す。日本独特の素材たる西陣織の表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて筒状体２に形成されると、日本の伝統的な息吹きが筒状体２に吹き込まれ、花束が挿着された花束入り外装具１は、該外装具１が花束と共に華やかに輝く。外装具１が花を盛り立て、また花束が外装具１を盛り立てる新しい商品が生まれる。花束やブーケを包んで、和装に合う存在感あるものとなり、花嫁衣装にマッチする。和装結婚式に使用できる新たな商品になる。日本の伝統技を生かした伝統文化を発信し、いままで考えられなかった品格,豪華さの表現が可能になる。この花束入り外装具は、例えばパリコレで日本発の服装手回り品に使うことができ、また外国からの要人等を歓迎

するのに用いられていた従来の花束に代わるものとして使うことができる。さらに、工芸品などを一緒に使うことによって、その効果を一段と高めることができる。

また筒状体２が一の表皮片２０で縫製加工されるので、縫目ライン２１が少なく見栄えが良く、また縫製作業が少なくて済む。

【００２０】

(2)実施形態２

図４～図６はそれぞれ実施形態１と別形態の外装具１で、布地、特に織物からなる複数の表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて上面開口２２の筒状体２に形成されたものである。

図４は、きものや帯などの和装用布地から６枚の表皮片２０を裁断し、これら表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて上面開口２２の筒状体２に形成した外装具１である。各表皮片２０は略同形で、上方に向かって末広がりに広がる略しゃもじ状体になっている。ここでの各表皮片２０は表側だけでなく裏側も利用できるリバーシブル帯で作られる。その先端部分に花弁４０に似せた舌片部２５を設ける。各表皮片２０の側壁同士を突き合わせて縫糸２１ａで縫い合わせ、縫目ライン２１を形成して筒状体２にするが、縫目ライン２１は舌片部２５の基端で止める。このため、筒状体２の上面開口周縁に花弁状に複数の舌片部２５が延設される。舌片部２５は花弁状に代え、帯状にすることができる。本実施形態の筒状体２は、図示のごとく各表皮片２０の側壁同士を突き合わせて縫糸２１ａで縫い合わせるため、縫い代２０１が存在しない。符号２８は舌片部２５の外周縁に沿うようにして、各表皮片２０の表地２０ａと裏地２０ｂの間に挿置した保形用針金２８を示す。該保形容針金を設けることによって、舌片部２５を花弁状に保形し、安定して上面開口２２を開かせることができる。複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部、又は保持具に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、上面開口２２から筒状体２内に挿入,収納して花束入り外装具１をこしらえる際、一度各舌片部２５を曲げ、その形状を整えれば保形用針金２８がその形状を保持し、各舌片部２５が花弁状に安定して開くことでゴージャスな雰囲気を持続させる。

【００２１】

図５も布地、織物からなる複数の表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて上面開口２２の筒状体２に形成された外装具１である。各表皮片２０はリバーシブル帯の裁断品で作られ、縦長の逆台形形状になっている。各表皮片２０の側壁同士を突き合わせて縫糸２１ａで縫い合わせ縫目ライン２１を形成して筒状体２にするが、縫目ライン２１は各表皮片２０とも上端から所定長さを残し、ここより下方に縫目ライン２１を形成する。上端から所定長さを残した分が舌片部２５となる。符号２１１は縫目上端を示す。各舌片部２５は筒状体２の上面開口周縁に帯状に延設する。複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部、又は保持具に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、上面開口２２から筒状体２内に挿着し、花束入りの外装具１をこしらえた時、これら舌片部２５も花束の周りを取り囲んで花弁４０に似せた加飾弁を演出する。

【００２２】

図６も布地、特に織物からなる複数の表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて上面開口２２の筒状体２に形成された外装具１である。各表皮片２０はリバーシブル帯で作られ、縦長の長方形の形をしている。隣り合う表皮片２０同士が互いに縦半分を重ね合わせて筒状形成した後、下面開口２３寄りの位置で、下面開口２３と等距離を保って筒状形成部を周回するように縫糸２１ａで縫い合わせ縫目ライン２１を形成する。さらに、該縫目ライン２１よりも上方へ縦長の長方形の約１／３の高さまで上がった地点で、同じように下面開口２３と等距離を保って筒状形成部を周回するように縫糸２１ａで縫い合わせ縫目ライン２１を形成し筒状体２にする。上段の縫目ライン２１よりも上方の各表皮片２０の部分が舌片部２５となる。図４～図６の外装具１の筒状体２たる本体主部２４は花瓶のように筒内面積が小さく且つ縦方向にある程度長さが確保されているので、筒状体２に収納された花束が安定し、特に紐状体３がなくても筒状体２だけで外装具１の役目を十分果たす。他の構成は実施形態１と同様で、その説明を省く。

【００２３】
このように構成した外装具１は、外装具１に花束を挿入して花束入り外装具１としたときに舌片部２５が花弁４０に似る加飾弁となって、一層絢爛豪華になり豊かな表現を演出する。図６の舌片部２５は長いので、本外装具１の購入者はこれを丸めたり垂らしたりして工夫をこらすことが可能で、斬新な外装具１に仕上げることができる。図４,図５の外装具１は上面開口２２に向かって中空円錐台状に広がるため、複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部、又は保持具に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、上面開口２２から挿入し易くなっている。各表皮片２０はリバーシブル帯で作られるため、好みに合わせて表地と裏地の両面を楽しめる。他の効果は実施形態１と同様で、その説明を省く。

【００２４】
(3)実施形態３
実施形態１では、筒状体２の下半部を紐状体３で結束して棒状の把手部分にし、またこの把手部分から筒状体２の上半部がラッパ状に広がる外装具１とした。そして、花束の上半部が外から見えるようにして、筒状体２のラッパ状部分がその下の花束の部位に膨らみを与えて取り囲むようにしたが、本実施形態は図７,図８のごとくラッパ状部分に相当する拡径部２ｂ、さらに把手部分に相当する棒状筒部２ａを前もって立体作製した外装具１とする。
本外装具１は布地、特に織物からなる複数の表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて上面開口２２の筒状体２に形成するが、保護具５たるブーケホルダーの柄部５ａが納まる棒状筒部２ａと該棒状筒部２ａから上方にラッパ状に延設する拡径部２ｂを備える。棒状筒部２ａと拡径部２ｂは布地の複数の表皮片２０を用いて縫製で作られる。拡径部２ｂには様々な大きさのブーケに対応できるよう拡径部２ｂの外周縁から棒状筒部２ａに向かって一本の切り込み２ｂ$_1$を設ける。
拡径部２ｂは図７のごとく棒状筒部２ａから上方に向かって漏斗上部のようにラッパ状に広がる。切り込み２ｂ$_1$があるものの、その部分はスリット状に切り込まれていて目立たぬようになっている。棒状筒部２ａは漏斗の筒口のようにして、柄部５ａが挿入できる内径と長さを有する筒本体２ａ$_1$とこの筒本体の下端を塞ぐ有底部２ａ$_2$を備える。符号２６は拡径部２ｂの付け根を周回,配設したゴム製紐で、棒状筒部２ａに挿着されたブーケホルダー５の柄部５ａを締め付け、保持する。符号２７はゴム製紐２６を覆う被覆カバーを示す。他の構成は実施形態１と同様で、その説明を省く。

【００２５】
本実施形態の外装具１は次のようにして使うことができる。ブーケホルダー５たる保持具に、複数本の花材４を差し入れて寄せ集められて花束ができるブーケは、例えば図２５のようなブーケホルダー５を使用する。柄部５ａの付け根に形成した拡部５ａ$_1$からラッパ状に広がる受器部５ｃが延設され、該受器部に商品名「オアシス」と呼ばれる花材保持ブロック５ｂを収納した後、篭体５ｄで囲ったブーケホルダー５である。花材保持ブロック５ｂに所定間隔で種々の花材４の軸４ａを差し込んで、図２６ごとくのブーケができる。
このブーケに係るブーケホルダー５の柄部５ａを、外装具１の拡径部２ｂの上面開口２２から棒状筒部２ａに挿入する。ブーケの花束の下部且つブーケホルダー５たる保持具を、図８のごとく上面開口２２から挿入し筒状体２内に収納することで、ブーケの花束入り外装具が完成する。

【００２６】
このように構成した外装具１は、ブーケホルダー５たる保持具に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、柄部５ａを先端にして上面開口２２から挿入し、筒状体２内に柄部５ａを収納すると、花束入り外装具が簡単にできる。柄部５ａのプラスチック製部分はむき出しになって、花の部分とは対照的に見劣りしていた箇所を外装具１が覆い隠し、和装にも適合する気品ある花束一体外装具が出来上がる。これまでのブーケでは似合わなかった分野にも広がりを見せ、ブーケの良さを生かしながら

新たな販路を拡大できる。他の効果は実施形態１と同様で、その説明を省く。

【００２７】

(4)実施形態４

実施形態１では、布地、特に織物からなる一の表皮片２０が縫糸２１ａにより縫合されて上面開口２２の筒状体２に形成され、更に筒状体２の所定高さの位置で、筒内径に沿ってゴム製紐２６を環状に配設し、該ゴム製紐２６がその部分の筒状体２の筒径を絞る筒状体２を形成したが、本実施形態は図９のごとく柄が違う二種類(又は複数)の薄手の和装布地からなる筒状体２を具備する外装具１とする。二種類の筒状体２は、図１０のごとく一の筒状体２の筒内に他の筒状体２を挿通させ重ね着させる。この重ね着によって前記外装具１では表現できなかった深みある新たな外装具１が出来る。さらに筒状体２と別体にして、重ね着した両筒状体２を結束できる紐状体３を具備する。二種類の筒状体２を重ね着させた後、花束や花を生けたブーケ等の下部を収納した筒状体２の外面下部を紐状体３で巻くことができる。尚、図９,図１０の筒状体２は縫い代２０１を設けて縫目ライン２１をつくるが、実施形態２のごとく、各表皮片２０の側壁同士を突き合わせて縫糸２１ａで縫い合わせ、縫目ライン２１を形成することで、縫い代２０１をなくすことができる。他の構成は実施形態１と同様で、その説明を省く。

【００２８】

このように構成した外装具１は筒状体２が上面開口２２、更に下面開口２３になっているので、上面開口２２等を利用して図１０のごとく二種類の筒状体２を重ね着させることができる。この重ね着によって、外装具１の豪華さ,ボリューム感をより一層際立たせることができる。他の効果は実施形態１と同様でその説明を省く。

【００２９】

(5)実施形態５

本実施形態は図１１～図１３のごとく、筒状体２と、これと別体にして、布地、特に織物からなる細長帯状の加飾片６をさらに具備し、該加飾片６の基端部が筒状体２内に挿入、配設されるか、筒状体２の外周面に配されて紐状体３で結束されるようにした外装具１である。加飾片６は、その基端部が筒状体２内に挿着されて内用飾り片６ｃとなり、また筒状体２の外周面に固定されて外用飾り片６ａになる。筒状体２に布地、織物からなる一又は複数の帯状にした加飾片６が付加される。加飾片６は所定大きさの２枚に裁断した布地片を重ね合わせ、その周囲を縫糸２１ａにより縫合して形成したものである。加飾片６はリバーシブルになっている。

図１１,図１２の外装具１は、図５の筒状体２を少し縦長に伸ばした形状の筒状体２と、縦長台形の加飾片６を複数用意して作ったものである。図１２は外用飾り片６ａ,６ｂに模様を付け、分かり易く表示する。図５と同一符号は同一又は相当部分を示す。図１１では紐状体３の図示を省略する。外用飾り片６ａ,６ｂは、その一部を筒状体２外に出しつつ、該外用飾り片の基端部を上面開口２２から挿入し前記筒状体２内に収納,保持させる。また、内用飾り片６ｃは、その一部を筒状体２外に出しつつ、該内用飾り片の基端部を筒状体２の外周面に配設する。しかる後、この外周面に配された加飾片６の基端部を含めて筒状体２の外面下部を図１２のごとく紐状体３で巻く。すると、このままでも気品,豪華な雰囲気を味わえる外装具１の置物ができる。勿論、加飾片６と共に、複数本の花材４が直接寄せ集められてなる花束の下部、又は保持具に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなる花束の下部且つ該保持具を、前記上面開口２２から前記筒状体２内に挿入,収納し、花束入り外装具１とすることができる。尚、図示を省略するが、加飾片６の先端部分の外周縁に沿って、図４の保形用針金２８と同様に該加飾片６内に針金を挿置すると、加飾片６の形状保持に役立ち、より好ましくなる。

【００３０】

図１３は図１１,図１２と別態様の外装具１を示す。図１３は図４の外装具１を縦に少し伸ばしたような外装具１にし、また花弁状の舌片部２５の先端部分に丸みを設けた外装具１とする。図５と同一符号は同一又は相当部分を示す。そして、別途、この舌片部２５と同じように先端部分に丸みをつけた帯状の加飾片６を複数用意する。図１３では、加飾

片６の全てについて、その加飾片６の一部を筒状体２外に出しつつ、該加飾片６の基端部を上面開口２２から挿入し前記筒状体２内に収納,保持させる。その後、筒状体２の外面下部を紐状体３で結束している。他の構成は実施形態２と同様で、その説明を省く。

【００３１】

このように構成した外装具１は、実施形態２の効果に加え、加飾片６によって外装具１の華やかさを一層盛り上げることができる。外装具１の購入者は加飾片６を使うことで、その創作自由性が高まり、様々なアレンジを楽しみ、またオリジナリティ豊かな花束入り外装具１を完成させることができる。また、花材４がなくても、外装具１だけでも置物,飾り物として利用でき有益となる。

【００３２】

(6)実施形態６

本実施形態は図１４～図１７のごとくで、図１５が外装具１の構成部品の分解斜視図で、
図１４は図１５と同タイプの外装具を使って置物を完成させた斜視図、図１６,図１７は花束入り外装具１にした斜視図である。

本実施形態の外装具１は、例えば図１５のごとく実施形態２,実施形態４でみられるようなリバーシブルの筒状体２Ｂ(２)と、実施形態４でみられるような薄手の和装布地からなる筒状体２Ａ$_1$,２Ａ$_2$(２Ａ)と、実施形態５で用いた加飾片６と、紐状体３とを備えるセット商品にしたものである。図中、実施形態２,実施形態４,実施形態５と同一符号は同一又は相当部分を示す。これらのいくつかを組み合わせることで、様々な外装具１や花束入り外装具１を作成できる。

図１４は図１３のリバーシブルの筒状体２Ｂと同形状品に、図９の薄手の和装布地からなる筒状体２Ａを外から重ね着させ、さらに図１２,図１３にある加飾片６が、先端部分を外に出しつつ、その基端部を筒状体２Ｂ内に挿入、配設されるか、筒状体２Ｂの外周面に配して紐状体３で結束するようにした外装具１とする。一部の加飾片６は重ね着された両筒状体２Ａ,２Ｂの間に基端部が挿着されて、先端部分がダラリとたれたダラリ帯状体６１になる。

【００３３】

また図１６は、図１３のリバーシブルの筒状体２Ｂと同形状品に、図９の薄手の和装布地からなる筒状体２Ａ$_1$,２Ａ$_2$を外からさらに二重に重ね着させ、且つ花束の下部を筒状体２内に収納すると共に、図１２,図１３にある加飾片６が、先端部分を外に出しつつ、その基端部を筒状体２内に挿入、配設されるか、筒状体２の外周面に配して紐状体３で結束するようにした花束入り外装具１とする。図１７は図１５のセット商品を使って、図１６とは別態様の花束入り外装具１に仕上げたものである。他の構成は実施形態２,実施形態４,実施形態５と同様で、その説明を省く。

【００３４】

このように構成した外装具１は、実施形態２,実施形態４,実施形態５の効果に加え、筒状体２の重ね着による一層豪華な演出、また舌片部２５,加飾片６がゴージャスな雰囲気を盛り立て、さらに花束入り外装具を作る者の自由な創作性等を一段と高める製品になっている。図１４～図１７に示すごとく、加飾片６のダラリ帯状体６１は和装着物のダラリ帯を演出し、えも言われぬ美しさを表現し、商品価値を向上させる。

【００３５】

(7)実施形態７

本実施形態は図１８～図２３のごとくで、実施形態１、２、４～６の外装具１に、さらに筒状体２よりも小さな筒体７ａ又は有底筒体７ｂからなる剛性の形状安定部材７が該筒状体内に挿置され、保持具５を該形状安定部材に挿着できるようにした外装具である。本外装具１は筒状体２と紐状体３と保持具としてのブーケホルダー５と形状安定部材７と装飾布８とストッパ９とを備える。

【００３６】

ここでの形状安定部材７は、ブーケホルダー５の柄部５ａを装着できる筒内径を有する

筒体７ａで、柄部５ａよりも筒外径及び筒長さ共に一回り大きな円筒である。形状安定部材７は剛性のある硬質厚紙製で、織物からなる筒状体２と違って、手で握るぐらいでは変形しない。形状安定部材７は、図１８～図２２の筒部７０のみの円筒７ａに代えて、図２３(イ)や(ロ)のごとくの底部７１のある有底筒体７ｂとすることができる。図２３(イ)の形状安定部材７は節板を底部７１にして適当な長さに切断した竹製品である。図２３(イ)の形状安定部材７は広口のガラス瓶製品或いは陶磁器である。その広口が上開口部分７２になる。

【００３７】

装飾布８は、図２１のごとくブーケホルダーの篭体５を囲むようにして柄部５ａを包み込むことできる大きさのある四角形の布地で、装飾効果を一段と高めるものである。

【００３８】

ストッパ９は形状安定部材用９２と装飾布用９１のものがある。形状安定部材用ストッパ９２は弾性ゴム環からなり、形状安定部材７の筒面の数カ所(ここでは２カ所)にゴム環の弾性収縮力で巻回固定される(図１９のイ)。該ストッパ９２を形状安定部材７の上開口部分７２近く設けることによって、図２２のような外装具１を完成させたとき、ストッパ９２が筒状体２のゴム製紐２６に係止されるので、ストッパ９２と一体の形状安定部材７が筒状体２から抜け落ちてしまうことはない。尚、図２２は被覆カバー２７の図示を省略する。本実施形態のように形状安定部材７の筒面の中段付近にもストッパ９２を設け、このストッパ９２を巻き込むようにして筒状体２の下半部を紐状体３で巻けば、完成された外装具１からの形状安定部材７の脱落を完全になくすことができる。ストッパ９２に代えて、図１９(ロ)のごとく、形状安定部材７の外周筒面に凹み７０１を形成してもよい。該凹みにゴム製紐２６を嵌入させる状態にして、紐状体３で筒状体２の下部を結束すれば、形状安定部材７と筒状体２との一体化が図れる。

装飾布用ストッパ９１は弾性を有する輪ゴムからなる。ブーケホルダー５の篭体５ｄを取囲むようにして柄部５ａを装飾布８で包み込んだ後、その柄部５ａを包み込んだ装飾布８の部分を輪ゴム９１で止着する。この輪ゴム９１を弾性変形させるようにして、図２２のごとく装飾布８付き柄部５ａの部分が筒状体２内に既に挿置された前記形状安定部材７に挿着される。

保持具としてのブーケホルダー５は図８,図２５,図２６で示したものと同様のものであり、また筒状体２と紐状体３は実施形態１、２や４～６で示したものと同様であり、その説明を省く。実施形態１～６と同一符号は同一又は相当部分を示す。

【００３９】

次に、外装具１の一使用方法を説明する。まず、外装具１を完成させたとき、形状安定部材７に取着した上側ストッパ９２が筒状体２のゴム製紐２６に係止されるよう、該ストッパをゴム製紐２６よりも上面開口２２側に配する。次いで、ストッパ９２付き形状安定部材７を筒状体２内に配設する。続いて、図２０のごとく筒状安定部材７が配設された筒状体２の下半部を紐状体３で巻回し結束する。図２０はストッパ９２、ゴム製紐２６の図示を省く。

一方、ブーケホルダー５に複数本の花材４を差し入れて寄せ集められてなるブーケを作る。ブーケホルダー５の花材保持ブロック５ｂに種々の花材４の軸４ａを差し込んで、図２６ごとくのブーケができる。続いて、ブーケホルダー５の篭体５ｄを取囲むようにして柄部５ａを装飾布８で包み込んだ後、その柄部５ａを包み込んだ装飾布８の部分を輪ゴム９１で止着する。

その後、輪ゴム９１を弾性変形させるようにして、上記筒状体内に挿置された形状安定部材７の上開口部分７２から装飾布８付き柄部５ａを該形状安定部材７へ挿着することで、ブーケの花束入り外装具１が完成する(図２１,２２)。尚、図２１,図２２は花材４の図示を省略する。ブーケの下半部が外装具１で覆われ、花材４の上部が筒状体２外へ出るようになって、花束の自然美と外装具１の人工美の両者が調和した優美な姿が形づくられる。

【００４０】

このように構成した外装具１は、実施形態１の効果に加え、形状安定部材７が織物生地で撓みやすい筒状体２内に挿置されるので、この形状安定部材７によって形が整えられる。形状安定部材７が筒状体２内に組み込まれることによって外装具１の外観形状も安定する。またブーケホルダー５の柄部５ａは細めで長さもともすれば不十分であったが、柄部５ａに形状安定部材７が装着され、筒状体２を介してこの形状安定部材７を手で握るので、握り易く安定感が増す。形状安定部材７の長さも簡単且つ自由に変更でき、持ち易いばかりか、外装具１の全体バランスが整えられる。

また、ブーケホルダーの柄部５ａはプラスチック製なので、これを筒状体２で直接収納するよりも、形状安定部材７にブーケホルダーの柄部５ａを挿着する方がブーケホルダー５を安定固定させることができる。図２２のごとくストッパ９１,９２が設けられると、ブーケホルダー５を一層安定固定させることができる。

また、例えば図２０のように、筒状体２内に形状安定部材７を挿置し、紐状体３で筒状体２の下半部を巻回結束すれば、種々のブーケを製作後、それぞれのブーケについて簡単に組み替え装着でき便利になる。該形状安定部材７の上開口部分７２から取り付けようとするブーケの柄部５ａを形状安定部材７に装着すると、そのブーケの花束入り外装具１が完成する。

さらに、形状安定部材７が筒状体２内に挿置された形状は、美的外観を備えた立体的形状になるので、そのままでも飾っておくことができる。形が綺麗になるので、商品の良さを需要者,消費者に伝えやすくなる。そして、形状安定部材７は筒体７ａ又は有底筒体７ｂからなるので、必要に応じて、花束のまとまったものや花材４を１本ずつその上開口部分７２から差し込むことができ便利になる。花材４が造花の場合に特に有用となる。

また、形状安定部材用ストッパ９２が設けられているので、筒状体２内に挿置された形状安定部材７のズレ防止に役立つ。形状安定部材７が有底筒体７ｂからなると、中に水をいれて上開口部分７２を上にすることで、花入れの役割を担えるようになる。有底筒内に吸水スポンジを配設すると、アレンジフラワー感覚で花を差すことができる。図２３(ロ)のようなガラス瓶の形状安定部材７を用い、筒状体２を被着させることによって、壷形花瓶に花を生けるのと同様な作業が可能になる。

【００４１】

尚、本発明においては、前記実施形態に示すものに限られず、目的,用途に応じて本発明の範囲で種々変更できる。筒状体２,紐状体３,加飾片６,形状安定部材７,ストッパ９等の形状,大きさ等は用途等に合わせて適宜選択できる。例えば、図１８の保持具５に代わって、図２４(イ)や(ロ)のごとく、吸水スポンジ等からなる発泡体の花材保持ブロック５ｂを単独で保持具として用いることができる。図２４では花材保持ブロック５ｂを樹脂製フィルム袋Ｆに入れて、水を含ませた後、フィルム袋Ｆの上面開口F_1より少し下の箇所を軽く縛って保持具５とする。

【図面の簡単な説明】

【００４２】

【図１】実施形態１で、複数の花材を束ねた花束の下部を上面開口から筒状体内に挿着セットした外装具の斜視図である。

【図２】筒状体の表側斜視図である。

【図３】筒状体の裏側斜視図である。

【図４】実施形態２で、複数の表皮片で縫製された上面開口の筒状体の斜視図である。

【図５】図４と別態様の上面開口の筒状体の斜視図である。

【図６】図４,図５と別態様の上面開口の筒状体の斜視図である。

【図７】実施形態３の外装具の斜視図である。

【図８】図７の外装具にブーケの花束を挿着し、花束入り外装具とする様子を示す斜視図である。

【図９】実施形態４の二種類の筒状体の斜視図である。

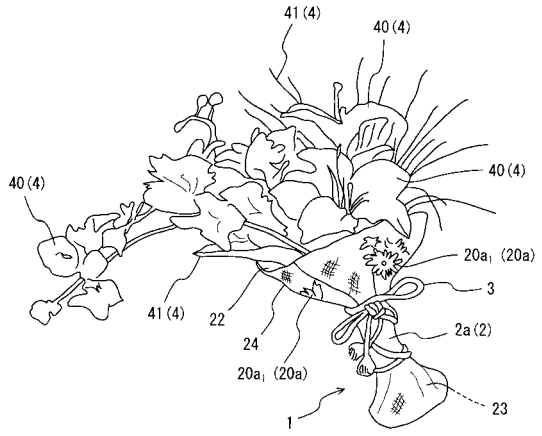
【図１０】図９の二種類の筒状体を重ね着させてなる外装具の斜視図である。

【図１１】実施形態５で、筒状体と加飾片を備えた外装具の分解斜視図である。

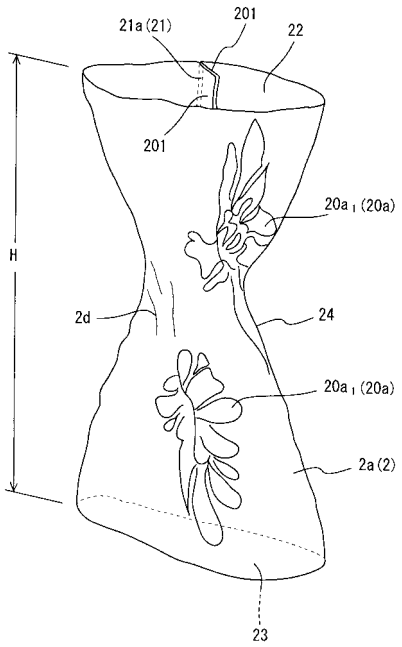
【図１２】図１１の筒状体と加飾片に紐状体を付加し、これらを置物として組み付けた外装具の斜視図である。
【図１３】図１１とは別態様の組み付けられた外装具の斜視図である。
【図１４】実施形態６で、筒状体と加飾片と紐状体を使って置物の外装具を完成させた斜視図である。
【図１５】外装具のセットを構成部品にバラした分解斜視図である。
【図１６】図１５の外装具のセットと同種のものを使用して、花束入り外装具にした斜視図である。
【図１７】図１６と別態様の花束入り外装具の斜視図である。
【図１８】実施形態７で、筒状体と紐状体と保護具と形状安定部材と装飾布とストッパを備えた外装具の分解斜視図である。
【図１９】（イ）が図１８のストッパ付き形状安定部材の縦断面図、（ロ）が（イ）のストッパに代えて該形状安定部材に凹みを形成した縦断面図である。
【図２０】図１８の筒状体と紐状体と保護具とストッパ付き形状安定部材とストッパを組み付けた外装具の斜視図である。
【図２１】図２０の形状安定部材に、装飾布でカバーした保持具を装着した外装具の斜視図である。
【図２２】図２１の縦断面図である。
【図２３】図１８の形状安定部材に代わる他態様の形状安定部材の斜視図である。
【図２４】図１８の保持具に代わる他態様の保持具の斜視図である。
【図２５】ブーケホルダーの一例を示す斜視図である。
【図２６】図２５を用いて作製したブライダルブーケの一例を示す斜視図である。
【符号の説明】
【００４３】

１	外装具(フラワー用外装具)
２，２Ａ，２Ａ$_1$，２Ａ$_2$，２Ｂ，２Ｂ	筒状体
２０	表皮片
２１ａ	縫糸
２２	上面開口
２５	舌片部
３	紐状体
５	ブーケホルダー(保持具)
６	加飾片
６ａ，６ｂ，６ｃ	飾り片(加飾片)
７	形状安定部材
７ａ	筒体
７ｂ	有底筒体

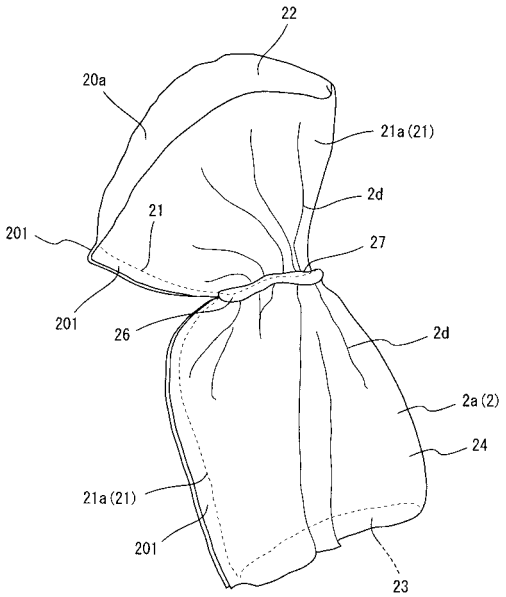
【図１】


41(4)
40(4)
40(4)
40(4)
20a1 (20a)
3
41(4)
22
24
2a(2)
20a1 (20a)
23
1

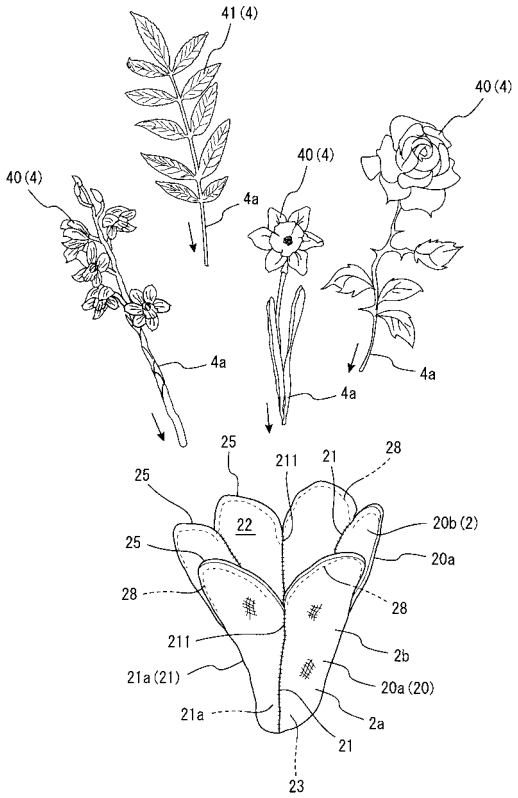
【図２】


21a(21)
201
22
201
20a1 (20a)
H
2d
24
20a1 (20a)
2a(2)
23

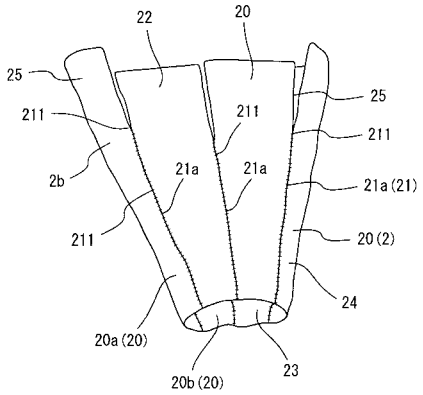
【図３】


22
20a
21a(21)
2d
201
21
27
201
26
2d
2a(2)
24
21a(21)
201
23

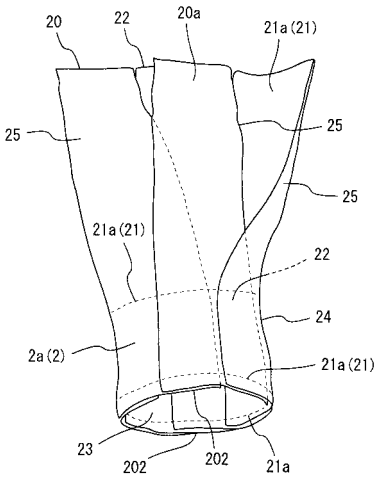
【図４】


41(4)
40(4)
40(4)
40(4)
4a
4a
4a
4a
25
211
21
28
25
22
20b(2)
25
20a
28
28
211
2b
21a(21)
20a(20)
21a
2a
21
23

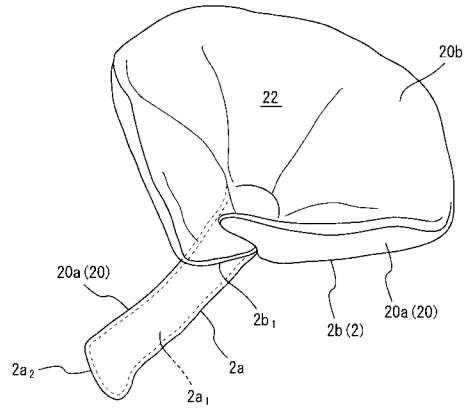
【図５】



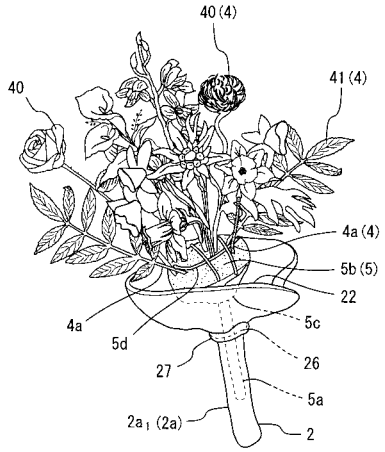
【図６】



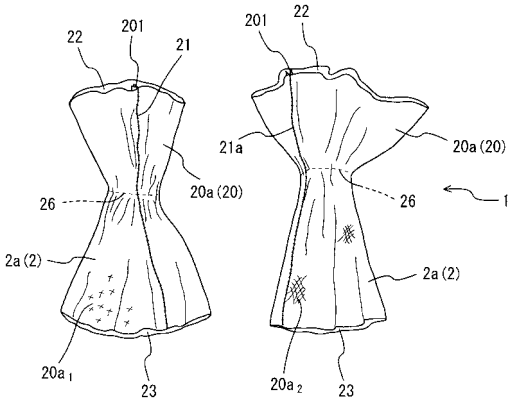
【図７】



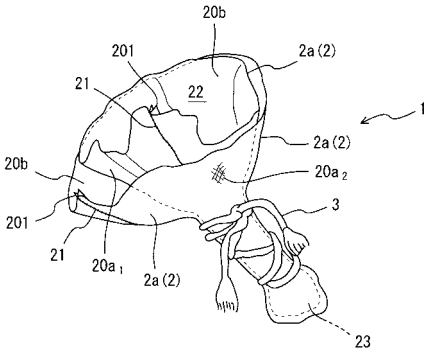
【図８】



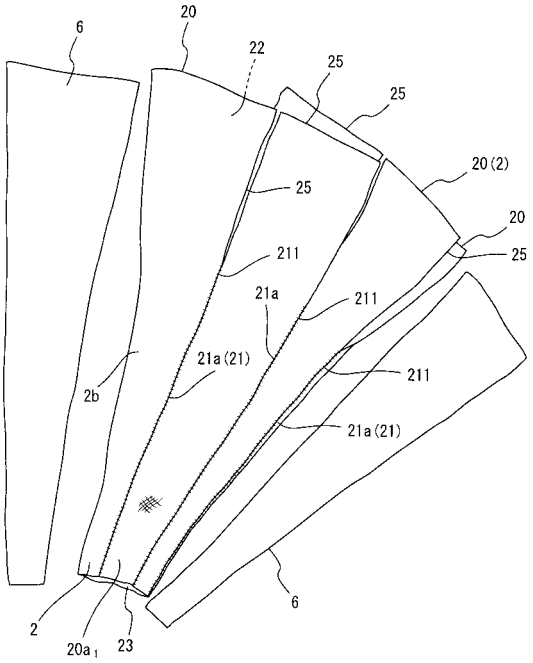
【図９】



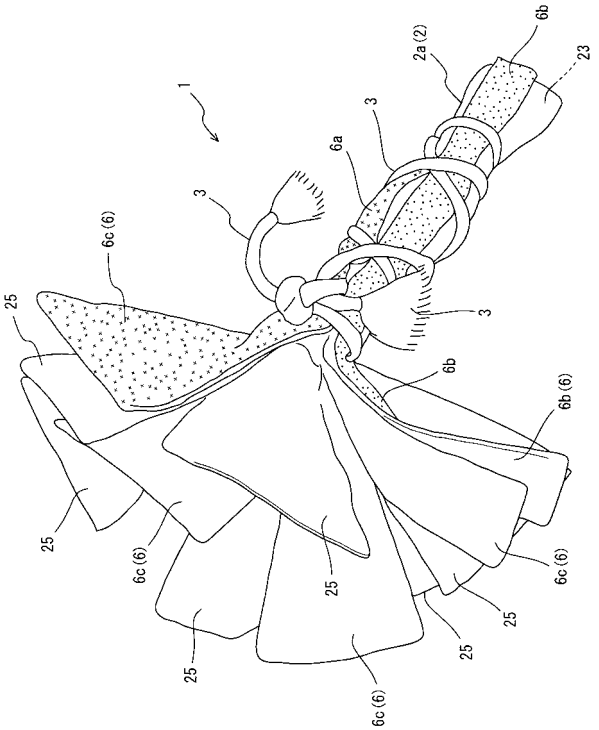
【図１０】



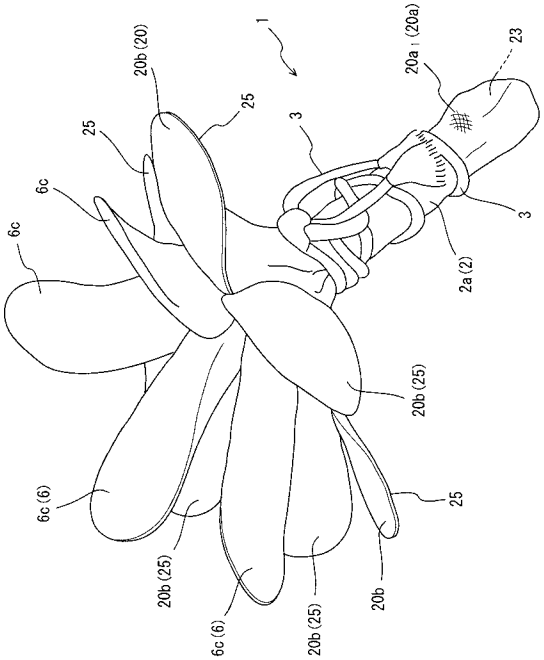
【図１１】



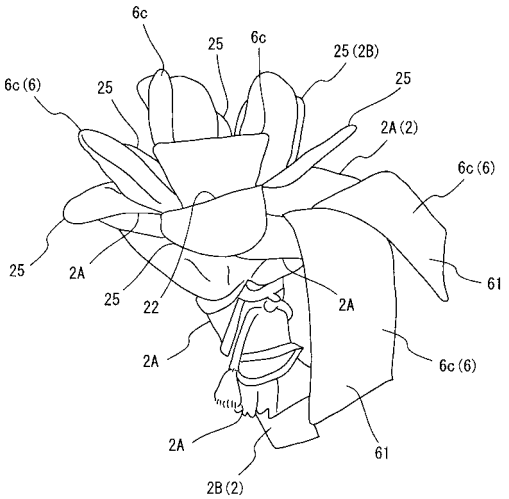
【図１２】



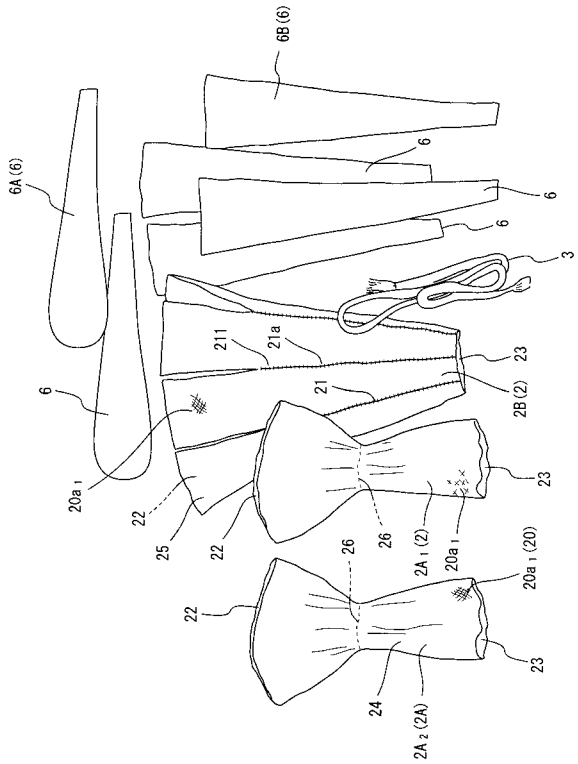
【図１３】



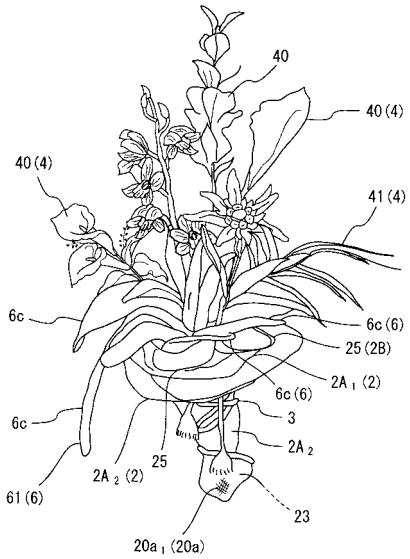
【図１４】



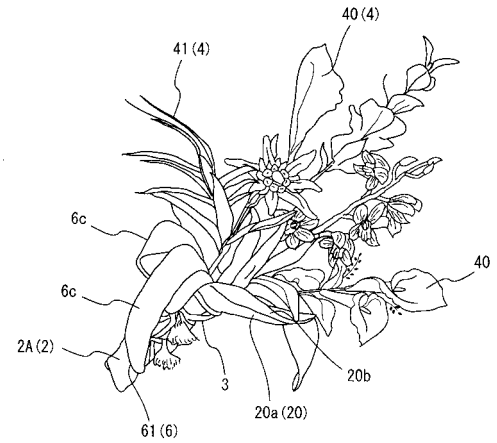
【図１５】



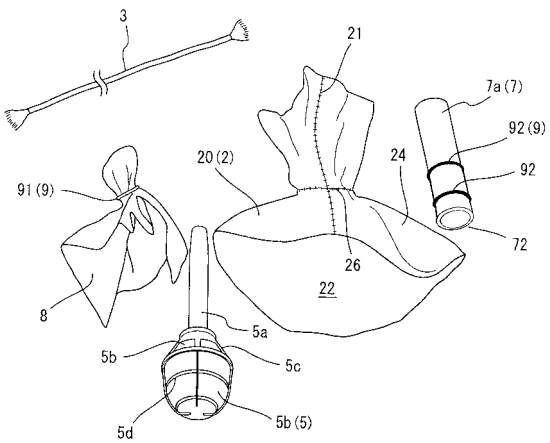
【図１６】



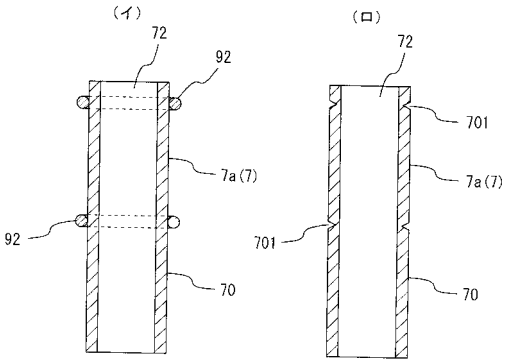
【図１７】



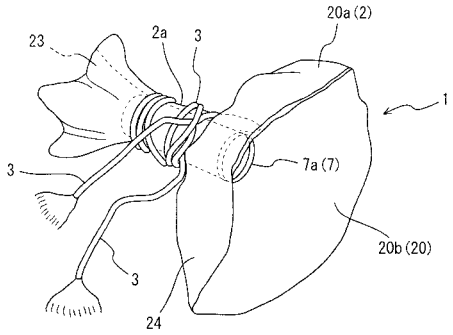
【図１８】



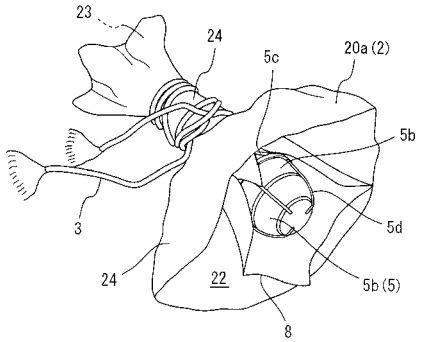
【図１９】



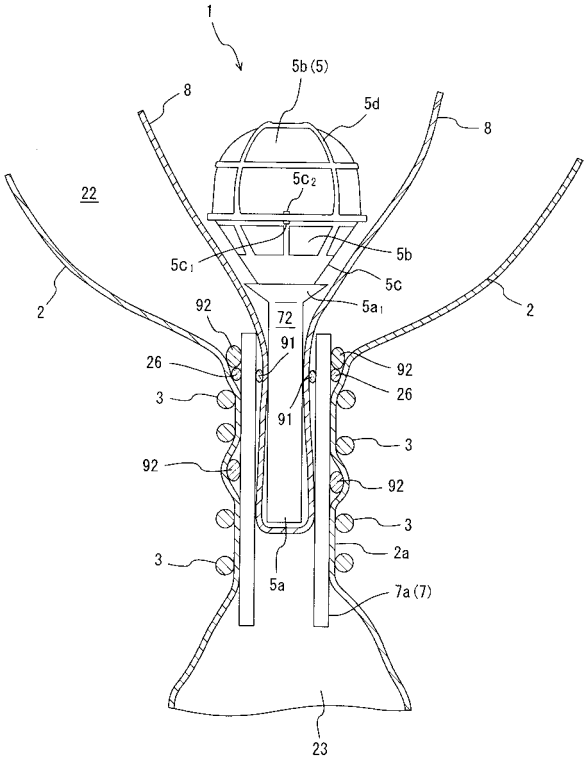
【図２０】



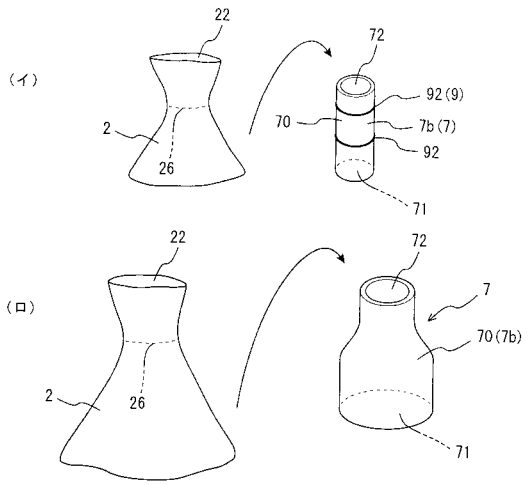
【図２１】



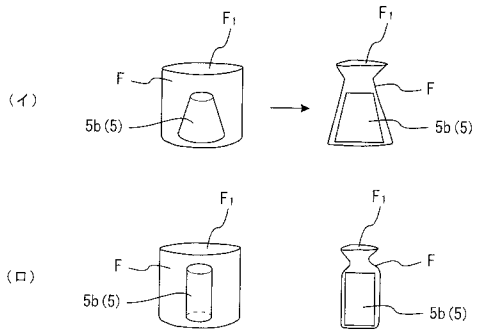
【図２２】



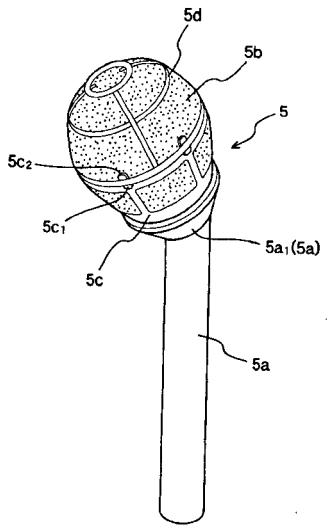
【図２３】



【図２４】



【図２５】



【図２６】

